

ブリ人工種苗の現状

企画・栽培養殖部 研究専門員 野元 聡

目的

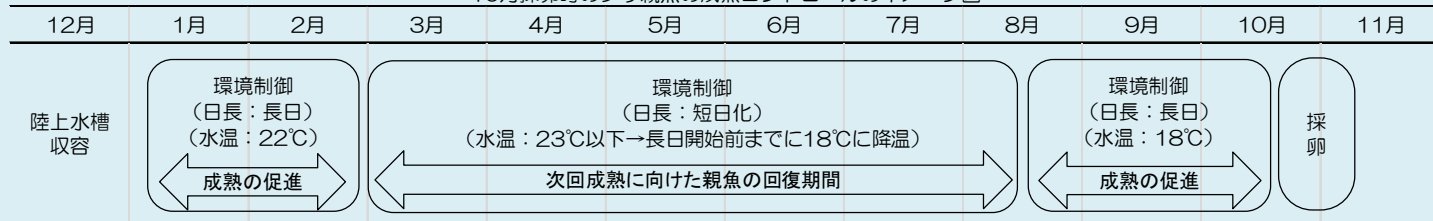
本県のブリ養殖生産量は全国第一位だが、今後さらなるブリ養殖業の振興を図るには、輸出拡大や周年出荷体制の構築への取り組みが必要であることから、県としてはブリ人工種苗生産体制を構築し、安定供給を目指している。
ブリ人工種苗については、(国研)水研機構より生産技術の移転を受けた後、(公財)かごしま豊かな海づくり協会へ技術指導を行い、令和2年度より協会による生産、販売が行われている。今回はこれまでの成果や現状について紹介する。

親魚養成, 採卵

成熟コントロール

- 周年出荷を可能とするため、日長、水温の環境制御を行い10~11月に成熟させる
- ブリは水槽内での自然産卵が難しいため、ホルモン処理を行い人工採卵、授精を行う

10月採卵時のブリ親魚の成熟コントロールのイメージ図



これまでの採卵結果

- 当初はメスの成熟を同調させることができず安定した採卵はできなかった
- R3年に10, 11月の両月ともまとまった数の採卵に成功

これまでの採卵結果

年度	H30	R1	R2		R3	
採卵日	H30.12.6	R1.11.7	R2.10.22	R2.11.29	R3.10.6	R3.11.11
総採卵数(千粒)	1,090	0	748	101	2,871	2,404



種苗生産

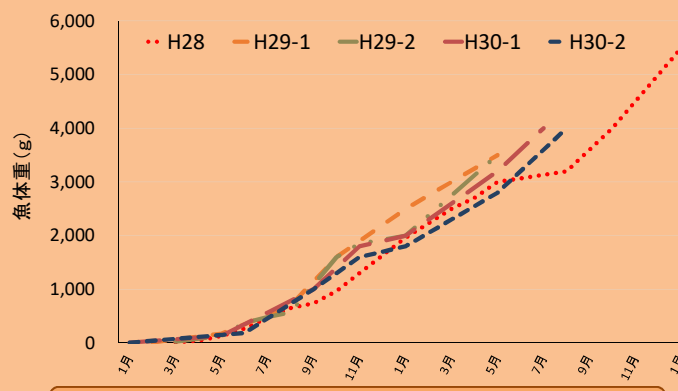
これまでの生産結果

年度	収容受精卵		孵化仔魚		出荷尾数	
	個数(万粒)	尾数(万尾)	心化率(%)	平均全長(cm)	尾数(万尾)	生残率(%)
H30	135	103	76.5	5~7	17.9	17.3
R01	56	40	71.9	5~8	13	31.1
R02 (2R合計)	190	142	74.6	7.0	29	20.4
R03 (2R合計)	407	278	68.3	7.4	53	19.0

- 種苗生産は生残率15%以上で安定した生産
- 生産尾数も年々増加しR3年は53万尾の生産



人工種苗の成長



沖出し~出荷までの成長の推移

- 人工種苗ブリは3.5kg以上で初夏頃に出荷
- 出荷サイズに(3.5kg)なるまで沖出し後15~17ヶ月
- 沖出し後疾病(腹水症)等による大量減耗の事例有り

今後の課題

- 安定した受精卵確保のための親魚養成, 採卵技術の向上
- さらなる早期種苗(8月採卵)生産体制(施設設備を含む)の検討
- 沖出し後の疾病(腹水症)等による減耗対策
- 育種による高成長な家系の作出